

縄文時代（紀元前 1 万年～紀元前 300 年）

縄文時代（紀元前 1 万年～紀元前 300 年）は、日本で粘土陶器作りが始まったことを特徴としています。この時代は、粘土陶器に押し込まれた「縄文」と呼ばれる装飾品を焼いてから焼成することから名づけられました。

一部の学者は、陶器作りは石器時代の人々によって始められたと主張し、他の学者は、陶器の生産が石器時代から縄文時代への移行を示したと主張しています。2 つの時代の間が別々の人々のグループであったかどうかについても同様の意見の相違があります。縄文時代は、石器時代の人々と交配したり、吸収したりした移民（おそらく陶器技術をもたらした）の流入から始まったと言われています。

縄文時代の何千年もの間で、陶器の技術は大きく進歩しました。当初、陶器は穴の中で焼かれていました。その後、窯技術が開発され、洗練されました。使用された形や装飾でさえ、時間の経過とともに進化し、考古学者が縄文を初期、中期、後期に細分化して、発展を追跡するのを助けてきました。

展示には、群馬県周辺で行われた複数の採掘でみつかった、土器の破片を使って再建された壺なども含まれています。精巧な縁や、取っ手、装飾が施されたものもあります。学者たちは、鍋が食べ物と水の両方を保存するために、そしておそらく料理のためにさえ使用されたと信じています。

土器は輸送中に壊れやすいため、遊牧民が貯蔵庫として使用した可能性は低いです。縄文人に広く使用されていたことから、縄文人は半定住者であり、長期間同じ野営地に滞在していたという説が有力視されています。これは、特に地球の温暖化に対応して森林や草地がより緑豊かになったため、日本内陸部の自然が豊富なために可能でした。

ライフスタイル

縄文時代になると、人々は小さな竪穴式住居からなる恒久的な集落や半恒久的な集落に住むようになりました。落ち着くと、彼らはかなり組織化された社会を発展させることができ、すべての人が使用できるように特定のゴミ捨て場を用意することになりました。これらの貝塚の残骸は、考古学者に縄文人の食生活に関する重要な情報を提供しています。

多くの初期の人々とは異なり、縄文人は根、果実、豆、そしてさまざまな木の実を含む多様な植物食を食べていたようです。彼らはパンに似たものを作るためにでんぷん質の食品を挽いたことさえ知られていました。

魚を捕って食べ、鹿や熊、猪などの大型動物を含む動物を肉用に狩っていました。陳列ケースには、石器時代のものよりもますます洗練された石の矢じり、槍の頭、斧の頭、石の刃の例があります。黒曜石はガラスのような火山性の石で、鋭利な刃先まで削ることができるため、矢じりによく使われていましたが、他にも同じような性質を持つ石がいくつか展示されています。人々はまた、さまざまな目的のために石を磨きました。磨かれた石斧は木を切るために使われ、欠けた面取りの石斧は掘るなど多目的に使われていました。このような軸は弥生時代（紀元前 300 年～300 年）まで普及していました。

麻からロープを作り、ラミー（イラクサ科の多年生植物）、麻（アルテミシア、キク科の多年生植物、ワームシードとしても知られています）、桜の樹皮などの植物繊維

を使用して生地を織っていました。また、宝石類も身につけていました。縄文時代初期には、カフのようなイヤリングや、耳の葉の上を滑るようにスリットが入った丸い石のイヤリングが一般的でした。その後、ピアスや肥大した耳たぶに挿入できるスプール状の焼き土のピアスが使われるようになりました。ビーズおよびペンダントは石、粘土、貝、角および角から作り出されました。

土偶

縄文後期の特徴的なものとして、土偶があります。通常、サイズは10～30センチメートルで、土偶は高度に様式化された人間または動物の形です。女性の土偶は特に人気があったようで、豊満な胸や膨らんだお腹が描かれていることが多いようです。

学者は土偶の重要性と使用方法について不確かです。ほとんどの土偶は、竪穴住居の後壁の近くに2つ以上の断片で埋められているのが発見されています。それらは意図的に壊されているようです。一部の学者は、浄化または癒しの儀式には、病気や悪霊を土偶に移し、それを破壊して脅威を排除することが含まれると理論付けています。女性の置物の場合、理論には、それらが女神を表すか、生殖能力のシンボルであるか、または安全な妊娠のためのお守りであることが含まれます。

他の縄文土器と同様に、土偶は時間の経過とともにますます精巧で詳細になりましたが、最も古く、最も単純な人間の置物でさえ、独特のまたは表現力豊かな顔をしていました。縄文時代後期の土偶は、腕や足に細かい模様が刻まれていることが多く、縄文人が精巧な刺青をしていた可能性があると考えられています。また、これらの土偶に描かれた衣服やアクセサリーは、埋葬地や他の場所で発見されたいくつかの人工物の用途について、学者がより多くのことを学ぶのに役立ちました。

土偶は厳密には縄文時代の現象であり、後の人々によって継続されなかったようです。